

地域教育力の向上を目指して ～小中学校・公民館との連携より～

児童学科 芦田 愛五

1 はじめに

岡山県教育委員会の生涯学習課は、「家庭・地域の教育力向上と郷土を支える人づくり推進」を掲げている。そして、その中の一つとして「地域が総ぐるみで子どもの育ちを支える体制整備」を行い、県・市町村の教育委員会が、地域総ぐるみで子どもを育てる体制を構築し地域社会全体の教育力向上を図ろうというものである。

それを受けて津山市教育委員会生涯学習課においては、様々な取り組みを行っているが、「公民館で実施する地域の子どもの居場所づくり」の活動はその一つである。これらの活動に美作大学が地域の方々と連携・協力して子どもたちの健全育成と地域力向上に貢献することは大きな意義が期待される場所である。

また、岡山県教育委員会の「放課後等学習サポート事業」や「地域学校協働活動」を受けてここ県北の美作地域においても、小中学校や公民館でも放課後や土曜日・日曜日、長期休業日に児童生徒の補充学習を学習習慣の定着や学力向上に繋げていく取り組みを行っている。

2 公民館で実施する子どもの居場所づくり推進と体験活動

津山市では、学校・家庭・地域が互いに連携・協働し、地域をあげて子どもたちを育てる、地域教育力向上につながる体制の整備や充実を目指している。そして、公民館において地域の大人や美作大学を中心とした大学生が先生となり、夏休み、冬休み、春休み等に子どもを対象とした講座や行事を開催している。この取組には、地域の高校生・中学生にもボランティアとして参加を呼びかけて、地域ぐるみの活動の輪を広げている。

子どもたちが、人とのふれあいや交流を通じて郷土愛を育み、自己肯定感を高めていけるように、各公民館での特色ある活動を実施している。

3 今年度の取組から…公民館を中心に

① 河辺公民館

毎年、夏休みに学校の宿題や自由勉強の支援をしている「夏休み河辺ゆうゆう学級」では、お盆休み前の4日間公民館に出向いて学習支援を行った。また、乳幼児の親子を対象とした「親子クラブ・河辺すくすく会」事業の「託児」にも昨年度から取り組んでいる。

河辺公民館 ゆうゆう学級

- ※ ボランティア参加人数 (学生延べ19名)、(地域の元教員延べ12名)
【8月5日(月)4名】【6日(火)4名】【7日(水)7名】【8日(木)4名】
- ※ 学習支援ボランティアが多いときは、参加児童に1対1で支援ができた。
そのおかげで、低学年の児童には好評であった。
- ※ 夏休みの宿題を中心に学習
夏休みの友、作文、感想文、公民館で用意したプリント、持参した問題集、ドリル

学習の様子



地域の元教員も毎年参加されます。子どもたちにとってはおじいちゃんおばあちゃんのような存在。やさしく見守るように教えてもらっています。





マッチ棒を動かして・・・答えを教えたいけども、
しっかりと児童に考えさせています。
学生も、声掛け・支援のタイミングが上手く
なっています。

② 広野公民館

広野公民館には、今年度初めて出かけた。新しい公民館長になり、津山市の「子どもの居場所づくり」に積極的に取り組んでいる。

「津山子ども未来塾」「広野子ども教室チャレンジャー」等様々な事業を「子どもの居場所づくり」に盛り込み、地域住民、公民館の講座生、中高生、美作大学の学生等を講師やボランティアとして活用して事業を展開していく取組である。これは、美作大学の「地域生活科学研究所」の地域に貢献するというねらいそのものである。

① 夏休みの取組

「夏休みの宿題をやっつけよう大作戦」

- ・8月5日(月)学生2名参加、8月23日(金)学生1参加
- ・学習後は、愛育委員さんと一緒に昼食を作って会食する。
- ・5日は、河辺公民館のゆうゆう学級と同日の開催で、しかも学生は、テスト期間中でもあったが、都合をつけて参加。

8月5日(月)



企画書

夏休みの宿題をやっつけよう

目的

夏休み中の子供たちの居場所を作る。
上級生が下級生を教えることによって、自分の理解の確認と定着を図る。
小学校内の上級生下級生との交流を深める。

内容

小学校から出されている「夏休みの宿題」を仕上げる。
工作・自由研究等のアドバイス、手助けを講師が行う。

ポイント

- ①小学生児童の自主活動。
- ②地域の大人のボランティアにより運営。

会場

広野公民館 集会室

講師

東中学校生徒のボランティア
地域の大人のボランティア

⇒ 大学・短大の教職課程の学生を招聘できないか？

日時

8月5日(月) 9時~11時半
23日(金) 9時~11時半

リスク

来館時の安全の確保。 ⇒ 見守り隊の協力が要請できるか？
集まった子供たち同士のトラブル。
昼食を準備する必要があるか？(アレルギーへの配慮！)

起案：広野公民館

公民館の絵手紙教室講座生の皆さんが講師として指導。ボランティアの中学生や大学生も挑戦しました。

夏休みの宿題や絵手紙の体験学習終了後は、みんなでカレー作り。小学校・中学校の先生も一緒にテーブルを囲んでいただきます。



8月23日(金)

前回同様に宿題等の勉強から始めて、絵手紙体験に挑戦。ボランティアの地元元教員や大学の学生も教員も初体験。児童のようにダイナミックに描けません。



ソーメン流し

夏の風情を体験

竹は館長が準備

最後は、愛育委員の皆さんが準備して下さったソーメンをいただきます。

夏休みの取組・・・成果と課題

- 広野小学校の児童を中心に公民館での夏休みの宿題を完成させる補助を中心に行った。
- 今回のプロジェクトには小学校から児童に募集案内状を配布して頂く等当初より大変協力していただいた。
- 期間中には校長や教職員の訪問もあり、昼食を児童と共にするなどの協力関係を強めることができた。
- 児童の保護者からも、工作指導の提案があり予定日数を増やして実施できた。
- もう少し早く準備に着手し、中学校や高校との連携を図りたかった。
- 地域の大人のボランティアの方々と顔見知りになり、校外での安全面でも今後に期待ができそうである。
- 小学校に今回作成した児童の作品を展示していると小学校より連絡があった。多くの児童や先生方にこのプロジェクトの啓発にもなっていることが期待できる。
- 学生や地域のボランティアの方々、絵手紙教室の講師の方々、愛育委員の皆さんの協力は、非常にありがたい。

② 冬休みの取組

企画書

冬休みの宿題を完成しよう。百人一首に挑戦しよう！

内容

日時： 2019年12月24日（火） 12時～16時
場所： 広野公民館
目的： ①冬休みの宿題を終える。 ・宿題プリント等 ・分からないところは分かるまで教える。 ・2学期までの授業で疑問に思った事を教え、きちんと理解させ、さらに知識を深めて新学期を迎えさせる。 ・習字（書初め） ・公民館の広い場所を使って、のびのびと習字をしよう。 ②「百人一首」でかるた取りをしよう。 ・日本の習慣を通じて古典文化に触れよう。 ・美しい日本語に触れよう。

趣旨説明

【事業主体】： ・つやま子ども未来塾事業 ・広野子ども教室“チャレンジャー”
【目的補足】： ・小学校の終業式に合わせる。 終業式の放課に合わせる事で、改めて来館させる必要がなく、保護者の送迎を半減できる。 ・冬休みの宿題やドリルを完成させるだけではなく、1～2学期を通じて理解不十分な部分を個別指導し、定着を図る。 ・先に進める児童に対しては、更に知識の拡大と深化を手助けする。 ・公民館集会室の広い場所で、のびのびと習字をさせる。 ・習字をしない児童については、引き続き学習させる。 ・日本の文化である百人一首のかるた取りを経験させ、日本語の美しさを体験させる。 ・未経験者には、百人一首の指導を行う。
【講師】： 美作大学学生 書道講師 教職経験者
未確定。 交渉中



冬休みの宿題に取り組む児童と
指導に当たる学生

宿題を済ませてみんなで書初めを。
1・2年生は、別室で硬筆の書初めを。
書道の先生は、各学年をまわって指導。



中学生も一緒に書きました

最後は、百人一首に挑戦 百人一首は大学から4セット持参して



みんなで一斉に札を取ります。
読み手は、小学校の校長先生。



続いてグループごとに
読み手は、大学生。

子ども未来塾(冬休み) 広野小学校児童参加者数 合計 45人

1年生 13人 2年生 6人 3年生 4人 4年生 12人 5年生 6人 6年生 4人

- 2学期終業式後に公民館に集まって昼食を共にしてから課題にとりかかった。
- 今回も、食事作りに愛育委員会の協力を頂いた。
- 書初めには書家や書道教室の講師による指導を受けることが出来た。
- 今回は、林野高校1名、東中学校の生徒5名のボランティアがあった。
- 百人一首では、小学校校長に詠み手を務めて頂き盛り上がり、「もう少し続けたい」と声が上がった。
- 今回のプロジェクトでも小学校で、児童に募集案内状を配布して頂いた。
- 東中学校校長、広野小学校校長や教職員の訪問もあった。

③ 春休みの取組

今年度初めて、春休みの教室を広野公民館と東公民館が計画した。新型コロナの影響を受け、津山市内の小中学校は、3月2日より休校になってしまった。休校までに、広野公民館では既に、春休みの計画を立てていて、広野小学校と津山東中学校に、それぞれポスターを掲示してもらい、チラシも児童生徒に配布していた。美作大学でも津山市教育委員会及び両公民館長と連絡を取り合い、打ち合わせも行って学生ボランティアを両公民館に派遣するように確保できていた。東公民館では、児童にチラシ配布もできないまま休校となり、実施不可能となった。広野公民館では、このような状況で参加児童は少なかったが、計画通りに実施した。

救急救命に挑戦しよう

津山子ども未来塾 広野子ども教室チャレンジャー

皆で一緒にご飯を食べて、一緒に学習しよう

公民館に集まって宿題をしたり、今までにじゅうぶんに理解できなかった学習を解決して、新学年をむかえよう。

日時：3月25日(水) 12時～16時
場所：広野公民館 (学校から直接来てください。)

時間割

- ①12時～12時45分 昼食 (愛育委員会の方が準備して下さいます。)
- ②13時～13時45分 宿題・学習 (自分が学習したいものを持ってきてね。)
- ③14時～15時 救急救命について学ぼう。(AEDって何だろう?) (消防士さんが教えて下さいます。)
- ④15時15分～ 宿題・学習

先生として：
・美作大学の学生
・地域の高校生・中学生のお兄さんお姉さん。
・地域の大人の方々。

保護者の皆様への重要なお願い

この企画はボランティアによる、子供たちの自主的な活動です。
① 公民館への送迎は各保護者の責任において行ってください。
② 活動中の事故等については一切の責任をおいかねますので、保護者の方の責任をお願いします。(裏面もご覧ください。)

申込は公民館まで以下の内容をご連絡ください。
電話 (Fax) 29-0380 郵便ポストも可 締切：3月10日

氏名・学年	(ふりがな)	年
アレルギー	無 有 (アレルゲン) ⇒ ()	
保護者氏名	保護者ボランティアに参加頂けますか? 可 ・ 否	
緊急連絡先		

救急救命に挑戦しよう

津山子ども未来塾 広野子ども教室チャレンジャー

コードブルーの世界?

皆で一緒にご飯を食べて、一緒に学習しよう

日時：3月25日(水)
12時～16時

場所：広野公民館
(学校から直接来てください。)

時間割

- ①12時～12時45分 昼食 (愛育委員会の方が準備して下さいます。)
- ②13時～13時45分 宿題・学習 (自分が学習したいものを持ってきてね。)
- ③14時～15時 救急救命について学ぼう。(消防士さんが教えて下さいます。)
- ④15時15分～ 宿題・学習



愛育委員の皆さんがカレーを作ってくださいました。愛育委員の皆さんに自己紹介をしてもらい、お礼を言っておいしくいただきました。



私達も児童、生徒やボランティアの皆さんと一緒にいただきました。おかわりもできました



中学校の教頭先生、教育委員会生涯学習課の担当の方の姿も見えます。

中学生のボランティアの姿も見えます。小学生と触れ合ったり、学校の課題に取り組んだりする中学生です

昼食後は、学生や地域のボランティアの方と一緒にプリントや問題集に取り組ました。児童は、個別の対応をしてもらえます。



最後の活動はいよいよ救命救急。参加者全員が心臓マッサージ等に挑戦です。



小学生も挑戦。
大学生がそっと体を支えて
やっています。



中学生も1、2、3、4・・・と
声を出しながら心臓マッサージ。



愛育委員の皆さんも挑戦です。
消防署員に質問もしながら真剣に
取り組んでいます。



小学生は何度も挑戦。腕を伸ばして
手の平をうまく使って胸に当てています。
とっても上手になりました。

- 救急救命のやり方を消防署員から指導を受けることが出来た。市内で火災が複数発生し、時間がずれ込んだが、消防団の指導者も来ていただき、心臓圧迫や救急車の呼び方等の指導を受けることが出来た。
- 美作大学学生、元教員、中高生、大人のボランティアによる手厚い指導、助言が出来た。
- 昼食を共に和やかにしてから課題にとりかかれた。
- 今回も、食事作りに愛育委員会の協力を頂いた。また、東中学校の生徒のボランティアもあった。
- 東中学校校長、広野小学校校長や教職員を始め、市の職員、市会議員や 国会議員秘書も応援に訪問して頂いた。

③ その他

・毎年、岡山県教育委員会の「放課後等学習サポート事業」を受けて、鏡野南小学校で学習支援を行っている。鏡野教育委員会の田中指導主事には何度か研究室に足を運んでいただき、学生も含めて打ち合わせを行った。新型コロナウイルスのため3月の支援ができなかった。

次の公民館や中学校等にも学習支援ボランティアに参加した。

- ・中央公民館 ・城西公民館 ・東公民館 ・佐良山公民館 ・大崎公民館
- ・美作市立美作中学校 ・PTA 連合会研修会

4 最後に

国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター主催の「平成 27 年度地域教育力を高めるボランティアセミナー」に平成 28 年 3 月 3 日・4 日に参加した。

この時の資料に改めて目を通してみると、当時の課題が少しずつ改善されている。

- ① 学生への交通費の補助及びタクシーの利用
- ② 生涯学習課及び公民館との連携
- ③ 研修時間の確保
- ④ 地域教育力の向上への貢献 である。

地域との連携を長く続けてきた甲斐があり、地域教育力にささやかながらも美作大学として貢献していると自負している。今後コロナの影響でどこまでできるか不安ではあるが、2020 年度も引き続き関係機関と連携をとり、地域教育力の向上に努めたい。